

故郷に活気を  
呼び込む「元氣集落」  
からの発信

平安時代末期から千年もの歴史を重ねてきた霧島市福山町の佳例川地区。住民の約半数が高齢化しているいわゆる限界集落だが、自治公民館の「むらづくり活動」がとても熱い。地区の豊かな自然と歴史、文化を背景に、ありのままの姿を生かした活動に注目が集まっている。今回はむらづくり活動のきっかけとなった、「佳例川を語る会」の発起人の一人、佳例川地区自治公民館副館長である板元岩雄さんに話を伺った。

佳例川地区自治公民館

副館長 板元 岩雄さん

Iwao Itamoto

## 佳例川地区自治公民館の

### 「むらづくり活動」の

### きっかけは？

きっかけは、平成7年に発足した「佳例川を語る会」です。高齢化率51%の限界集落である当地区は、祭りや運動会といった地域のイベントがどんどん縮小されていきました。そうすると活気がなくなり、地区はどんどん寂しくなっています。そこで佳例川の未来や夢を話す場として、有志で結成したのがこの会。同世代で気心の知れたメンバーということもあり、焼酎を酌み交わしながらいろいろな話をしました。

活性化を目指す第一歩として、まずは地域行事を復活させよう、と。最初に手がけたのが、戦前まで行われていた「お田植祭」の復活です。佳例川は「米づくり一千年の里」を自称する米どころ。県内で2番目に長い川である菱田



むらづくり活動に取り組む「佳例川を語る会」メンバーの皆さん。(前列中央が板元さん)

川源流地域であり、昼夜の適度な寒暖差がおいしい米を育みます。そんな米づくりを通じて、地区内外の人たちと交流ができたかと考えました。語る会のメンバーはもちろん、地区民からの協力をもらって、平成9年、65年ぶりに復活。田植えの後にはウナギのつかみ取りも行い、子どもたちの元気な姿や笑い声が響きました。

### 活性化のための具体的な

### 取り組みを教えてください。

これまで取り組んだのは佳例川ブランドの米や焼酎、サツマイモの生産・販売や、ホテル鑑賞会の開催などです。佳例川の自然と特色を生かしつつ、さまざまな人との交流ができればと考えています。現在進めているのは、休耕地を整備して田畑に戻すこと。この活動は水土里サークル活動の一環で、集

落のみんなで作業しています。整備した田畑は地区外からの農業希望者への貸し出しや、農業体験での活用も視野に入れています。宿泊体験もできるよう、古民家のリフォームも行っているんですよ。

また、平成24年度からは県のむらづくり事業を導入して、鹿児島大学農学部との学生と協働で、地域資源の発掘やアンケート調査に取り組み、活性化のヒントをたくさんもらいました。さらに、

霧島市の企業であるトヨタ車体研究所の職員や家族約120人を迎えてのウオークラリーも実施。あぜ道にある四つ葉のクローバーや野の花、西南戦争で付いた民家の刀傷、神社境内での長縄跳びなどをラリーポイントにしようと考えたのは同社の若手職員の皆さんでした。

地区の魅力である、ありのままの自然と歴史を楽しみながら巡るというアイデアは、住み慣れている私たちには目からウロコでした。これをモデルに、昨年は新米の収穫時期に合わせて「ふるさと佳例川新米ウオーキング」を開催。さまざまな取り組みを通じて、交流の輪が広がっていくのを実感しています。

### 板元さんをはじめとする、

### 活動メンバーの原動力は？

活動は多岐に渡りますが、メンバーにはそれぞれ得意分野があるのが強み。職業も個性もバラバラだからこそ、多くの意見やアイデアが生まれます。話し合いはものすごく白熱しますよ。でも最後にはピシヤリとまとまるから不思議なものです(笑)。

私たちのほとんどが本職を持っており、仕事の合間を縫っての活動なので、大変な面も多少あります。それでも「地区のために」と、見えない努力ができる人材が揃っているのは誇らしいで

す。また、地区の各部会の力添えも大きな支えになっています。

私は23歳の時、国際農友会の制度を使ってアメリカで2年間の農業留学をした経験があります。大学で講義を受けながら農業実習を行うというもので、農村活性化についても学びました。帰国後は畜産農家として鹿児島黒牛を育て、宿泊体験ができる農場として研修生も受け入れていました。こうした自身の経験や知識を、故郷のために生かせるのはうれしいですね。

今年、長年務めた自治公民館館長をバトンタッチしました。次のステージとして、人を呼ぶだけでなく、それを地区の経済へ反映させることが必要と考え、1次産業から2次・3次を見据えた取り組みにも着手しています。夢はまだまだ終わりません。データ上ではいわゆる限界集落ですが、メンバーは働き盛り。周囲の理解や協力、温かな声を原動力に、限界集落ならぬ「元気集落」として、佳例川地区を盛り上げていきます。



佳例川ブランドの商品。裏面に生産農家が明記されている「佳例川源流米 農家の愛情たっぷりそいだおこめ」(右)。サツマイモ「蔓無源氏(つるなしげんぢ)」で作った焼酎は、その名も「蔓無源氏」。佳例川地区産のみを使用している。